

巻頭言

比較日本学研究センター長

森 山 新

2004年度に本センターが発足し、満3年を迎えようとしています。1999年度に大学院博士後期課程に国際日本学専攻が設立され、国際日本学シンポジウムが開催されることで本格化した本学の日本学研究は、センター発足により一段と研究に深みと幅を増して来ましたが、昨年度、本学が「魅力ある大学院教育イニシアティブ：〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成をめざして」に採択されたことで、本年度はさらに拡大と発展がなされた一年であったと思います。これにより、国際的な日本学研究的ネットワークが着実に形成され、ある時はパリ（コレージュ・ド・フランス）、ソルボンヌ（ブレーズ・パスカル大学）など海外にて、またある時は逆に本学に著名な日本学の専門家をお招きして、様々な国際シンポジウム、講演会が開催されました。

さらにこうした動きは今年度、日本学研究の盛んな海外の諸大学とともに、「日本学コンソーシアム」結成に至りました。このコンソーシアムはこれまでの国際シンポジウムとはやや性格を異にし、「国際ジョイントゼミ」を核として進められているもので、次世代のリーダーたる大学院生に研究発表の機会を提供する研究の世界的ネットワークだけではなく、研究者育成のために教育指導の世界的ネットワークを提供するものです。昨年来、韓国、中国、チェコ、台湾、ロンドンの大学・研究機関とジョイントゼミが行われ、昨年12月にはこれら海外6大学から日本学を専門とする大学院生と指導教員を本学にお招きし、国際日本学コンソーシアムの名の下に国際ジョイントゼミ、シンポジウム、公開講演会が開催されました。

また従来から続いてきた「国際日本学シンポジウム」も今回で第8回を数え、200名を越える方々にご参加いただきました。

研究プロジェクトも本年度は10余りとなり、日本学各分野の研究プロジェクトが進行中です。グローバル時代を迎え、日本学研究もまた、グローバルな視点が求められつつあります。それだけに今年度の世界的な研究・教育のネットワーク発展の基盤をこれからも引き継ぎ、さらに発展するセンターとなっていくために、これからも皆さまの、ご理解、ご協力を心からお願い致します。